

2003年3月号

ほくし

発行所

社団法人 大阪北区歯科医師会

大阪市北区南森町1丁目4番28号

プールパール南森町205号室

TEL(06)6363-0016 FAX(06)6363-0046



平成15年度 新年互礼会

大阪東急ホテル
3階『松風の間』

H15.1.21



新春恒例の新年互礼会が一月二十一日に大阪東急ホテルにて、関係官公署及び団体、議員の来賓も含め出席者約八十名を得て盛大に開催された。東郷専務の司会のもと、中谷副会長の開会のことばで始まり、黒川会長の年頭のあいさつがあったのち、来賓を代表して大阪府歯科医師会の岡邦恭会長より今後の府歯の方向性を示す挨拶を頂戴した。森田常務理事より来賓の紹介があり、川崎治北区長、中尾昌弘北保健センター所



長、岡村平太北区医師会会長よりそれぞれ祝辞を頂戴したのち、荒起秀多北区薬剤師会会長の発声で乾杯し祝宴に移った。

今年の互礼会の開催日を府歯の互礼会（二月十一日）の後で、連休明けを避けるように決定したので、例年よりも一週間遅い開催となったが、昨年から立食形式のなかでも出来るだけ着席



できるように配慮した会場設定にも慣れてきたようで、岡会長はじめ来賓並びに会員のほとんどが最後まで和気あいあいの中で、なだ万の料理に舌鼓を打ちながら懇談の輪が広がっていた。そして、大盛会のうちに大西副会長の閉会のことばでお開きとなった。

パノラマ

◎ある時期、チームともなった健康法があった。紅茶キノコ、さるのこしかけ、などなどである。今も内容は違え

で健康に対する志向が高い。マスコミにおいて、日々に伝播されている健康の情報過多は、取捨選択に悩まされるところである。

◎テレビや雑誌において、歯の噛み合わせによる全身への影響が注目されている。学会、研究会が設立されて種々な技法が示されている。あの病気が治った、この病気が改善されたと報告されている。

◎加藤元彦歯科医師によれば、脊推直立姿勢を抗重力筋の緊張で保つ特異な哺乳動物が人間であるという。その生理的姿勢を保つのは歯根膜の感覚機能であると記されている。結論として、今世紀中頃には、ウ蝕と歯周疾患の予防は可能となり、顎、口腔機能不全による自律神経—内分泌系・免疫系の病気が増えると考えられている。

◎この様な意味で歯科医療は、斜陽の仕事ではなく、社会に求められる健康の基軸となる「バラ色」の仕事なのである。

税務申告説明会開催

H15
2.5

平成十五年二月五日(水)、午後六時より「ガーデンシティクラブ大阪」において税務申告説明会が開催されました。

三浦(幹雄)部員の司会で、黒川会長の挨拶で始まり、北税務署の伊達副署長の挨拶の後、中澤個人課税第一統括官により(1)確定申告書等の作成に当たっての留意事項について(2)確定申告に当たり誤りの多い事項について(3)青色

申告の特典等についてくわしい説明がなされました。

今年から、納税者の方々からの「国税庁ホームページで作成した所得税の確定申告書をそのまま税務署に提出できるように」という声にお応えし、国税庁ホームページの「所得税の確定申告書作成コーナー」で作成した申告書は、税務署にそのまま提出できるようになったそうです。



(医療管理部)

(国税庁ホームページ <http://www.nta.go.jp>) 終りに中谷副会長から御礼の言葉があり閉会の挨拶とした。

出席者は三千五百名でした。

昭和57年に唇顎口蓋裂が歯科矯正治療としては初めて医療保険に導入され、平成6年には顎関節等の外科手術を必要とする顎変形症が、昨年には第一・第二総弓症候群、鎖骨頭蓋異骨症、クルーゾン症

の不正咬合についても導入の可能性を示唆した。これを受けて、平成9年から(財)医療経済研究機構が歯科矯正の保険導入について具体的な検討に着手し平成11年度中に厚生省(当時)に答

不肖私も委員に指名され、平成11年に報告書を提出した。結論的には、唇顎口蓋裂以外の先天性異常については積極的に保険への導入を働きかけ、一般の不正咬合については問題が多すぎ、

論説

歯科矯正と医療保険

副会長 大西 馨

6疾患が新たに加えられた。少し古い話になるが、平成6年6月の中医協歯科小委員会において、歯科矯正

に関して「今後も中長期的に検討していく必要がある」という提言が示され、一般

申を提出することになって

日本矯正歯科学会では、これらの動きに対応し、学会としての見解を纏めるため平成9年に医療検討委員会を組織し検討を開始した。

更なる検討が必要であるというものであった。その結果もあって、医療経済研究機構の答申は

提出されず、取り敢えず前出の6疾患についてのみ導入が認められた。保険に占める割合は微々たるものであるが矯正歯科医も努力していることを認識していただきたい。

民座 区講

北北支部、歯周病対策
について区民にアピール

北北六師会主催

H15
2.15

地域に密着した区民への医療サービスの具体化として平成10年から北北六師会で企画、立案して開講、「すこやかに生きるためには」をメインテーマに受講希望の区民30名程度を対象に各会輪番制で講師を立てて区民講座を続けてきた。平成10年には森田常務理事が「歯を長持ちさせるために」と題して講演し、区民から好評を得たことがあり、今回も再度当会が当番で歯周病について歯科医師と歯科衛生士がコンビで歯周病について区民向けの講演を行った。



厳冬の土曜日の午後という悪条件であったが定員30名の会場に補助椅子の導入42名の区民が聴講という大盛況となり、区民の歯周病に対する関心の高さを改めて知る思いであった。講演は、歯科医師の立場

から歯周病に強い東郷専務理事が、また歯科衛生士の立場から東郷歯科の小澤歯科衛生士がそれぞれスライドとデモを混えて発生原因、



治療法、予防法等について徹底的に解説した。講演後区民から多岐にわたる質問が殺到、講演陣が回答に大わらわ、タイムオーバーになるほど反響があった。区民は、講演の中でも説明の



あった歯間ブラシとフロスシルクのセットをみやげに満足して帰っていった。

着々と実行されつつある医療費抑制政策の嵐の中で、今こそ各支部があらゆる機会を見つけて地域住民に対して歯科医療の重要性を積極的にアピールし、その価値観を高めてもらう行動を起こすべきであり、またそのことによって大阪全体の大きなうねりに発展することを切に願うものである。

(黒川記)

編集後記

「ほくし」第161号の発行です。単純計算で約32年間です。(年5回刊)昭和から平成へ変わり、社会も色々と変化しました。諸先輩の作り上げられた「ほくし」は、常に不変でありたい。

